

上原 優子 准教授

フードバンクの挑戦と現物寄付の評価



「世界全体が幸福にならないうちは

個人の幸福はあり得ない（宮沢賢治）」

冒頭の言葉は私が人生で最も大切にしている言葉です。世界のどこかに1人でも不幸な人がいるなら、人は本当の幸せを感じることはない。自分が何のために生きているのか、何のために生きている時間を使うのか…その視座を与える言葉でした。

私の専門は会計学であり、会計学の博士であると同時に米国公認会計士でもあります。世界に存在する最後の1人が幸せとなるために、どのような専門性を持って社会と関わるのかということが人生の公案であり、基本的な判断指針でした。世界には貧困に喘ぐ人々や弱者のために活動する多種多様な組織があります。それらの組織を会計の専門性を持って関わり続け、組織基盤構築の支えとなる研究を行ってきました。具体的に関わってきた組織には、難民問題の解決に取り組む組織、まだ食べることが可能にも関わらず処分される食品を、食べ物がなくて困っている人々に届けるフードバンクなどがあります。

どのような組織でも活動する以上はお金が動き、それを適切に管理する必要があります。しかし、このような活動をする組織は会社と異なり、例えば収入源が寄付金であるとか、寄付されるものが金銭ではなく、食品であったりもします。状況に応じた適正な資源管理を実施して、資金を有効かつ適切に使用したことを関係者に報告し、社会的な信頼を構築するには会計の知識が不可欠です。そしてどのような組織に対しても横断的に活用できる技術が会計なのです。

これまで、NPO法人の会計基準の策定に関与し、その前段階として各国にはどのような非営利の会計基準があるのかを調査し、また金銭以外の寄付をどのように評価するのか等の研究を行ってきました。研究の成果は、論文や書籍などにまとめています。「フードバンクー世界と日本の困窮者支援と食品ロス対策（明石書店）」では、「食料等の現物寄付の評価ーアメリカのフードバンクとアカウントビリティ」というチャプターにて日本のフードバンクの現状と現物寄付の評価、アメリカのNPOの制度とフードバンク、フィーディング・アメリカにおける食料等の評価等について論じました。また、「税理士/公認会計士必携 NPO法人実務ハンドブック（清文社）」の出版にも携わっています。



寄付された食物を配送するトラック
（アメリカのフードバンク
Northern Illinois Food Bankにて）



食物の寄付を収集する様子
（アメリカのフードバンク
Greater Chicago Food Depositoryにて）



著書「フードバンク」

学部

国際経営学部

研究分野

会計学、監査論、社会的企業、
社会的金融